

令和 元年 9 月 12 日現在

機関番号：37113

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K16709

研究課題名（和文）エリザベス朝・ジェイムズ朝演劇文化における民衆文化と祝祭空間に関する動態的研究

研究課題名（英文）A Study on Elizabethan and Jacobean play, culture and festival

研究代表者

國崎 倫（KUNIZAKI, RIN）

九州国際大学・法学部・准教授

研究者番号：30735709

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,100,000 円

研究成果の概要（和文）：エリザベス朝・ジェイムズ朝イングランドにおいて、さかさま世界を具体例とする民衆文化や祝祭空間が演劇文化に影響を及ぼした様子を、歴史的資料をもとに具体的に論証した。当時の恒常的な疫病禍において死の表象形態は享樂的雰囲気を選び、祝祭空間を構築する。これは戯曲にてコミックレリーフと誤解されている。ロンドンで実際に出版された死の舞踏図と寓意詩を収集すると論証できるものであり、シェイクスピア戯曲にも確認できる。

研究前半では当時の民衆文化と祝祭空間について、死亡週報など印刷物を根拠に社会的特徴を分析し、後半では民衆文化の文学作品に対する影響に着目して、シェイクスピアと他の劇作家たちの戯曲を比較考察した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

今日、文学研究においても証拠の提示が求められており、文学作品を社会的・歴史的研究の観点より研究しようとする姿勢は比較的に新しく有望である。本研究は、近年次々明らかになっている歴史研究の成果を踏まえた文学研究という立場を取りながら、疫病と死に関連する民衆文化と祝祭空間がエリザベス朝、ジェイムズ朝の演劇文化に与えた影響について論じている。権威ある有名な作品を証拠として依拠するよりも、当時の民衆の本音を語る匿名の歴史的資料群を理解することが改めて重要視されるべきであり、疫病と死に対峙しながら、興行収入を重要とする劇場にて敢えて享樂的・刹那的に表象した民衆の努力と過程を、戯曲の中に確認し論証する。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to examine how the common people in the Elizabethan and Jacobean England tried to accept death/Death and plague, and to show the interrelation between Death representation in popular culture and Shakespeare's plays. Surely, many books analyzed these points from social, historical, religious, medical, iconographical and cultural viewpoints, but this study originally collected historical printings, broadsheets, leaflets and books published in the sixteenth and seventeenth centuries. This study can mainly focus on messages from anonymous printings to which hitherto insufficient attention has been paid. With these anonymous precious printings and manuscripts, we can gain a new vision to understand Shakespeare's plays and the difference between other playwrights on the point of the festive (upside-down) world.

研究分野：イギリス文学シェイクスピア作品

キーワード：イギリス文学 祝祭空間 民衆文化 死表象

様 式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19（共通）

1．研究開始当初の背景

エリザベス朝・ジェイムズ朝イングランドにおいて、民衆文化や祝祭空間が演劇文化に及ぼした影響について、歴史的資料をもとにした具体的論証には依然として余地があると思われた。例えば、当時の恒常的な疫病禍において死の表象形態は享樂的雰囲気を帯び、擬似的な祝祭空間を構築するが、戯曲においてコミックレリーフと誤解され片付けられてしまう傾向にある。研究者は、これらの背景には「死の舞踏」に関連するアイロニカルな民衆文化があると考えていた。研究開始当初においても、文学研究の分野における証拠の提示が求められ、作品を社会的・歴史的研究の観点より研究する姿勢はまだ比較的新しく、有望であった。研究者は、歴史研究の成果を踏まえた文学研究という立場より、疫病と死に関連する民衆文化、特に祝祭文化がエリザベス朝、ジェイムズ朝の演劇に与えた影響を論じる必要性を感じた。その際、権威ある有名作品のみを証拠として依拠するだけでなく、当時の民衆文化を証明する匿名の歴史的資料群への理解を深める必要があると考えていた。

2．研究の目的

エリザベス朝・ジェイムズ朝期における演劇文化に影響を与えた民衆文化と祝祭空間に関する動態的研究を行うことが、本研究の目的であった。まず、英国初期近代の演劇文化にみられるフランドル地方文化を代表例として、ヨーロッパ広域の祝祭空間より戯曲が受けた影響を実証的に記述すること、そして、さかさま世界 ブロードシートにも確認できる死表象からの影響がシェイクスピア作品に確認できることに着目し、戯曲や政治風刺との関係性を探ることを目的とした。

3．研究の方法

大英図書館やオランダ国立図書館、その他イングランド各地の図書館が所有する貴重閲覧資料、また、Early English Books Online などのデータベースを利用しながら、16・17世紀イングランドの民衆文化と祝祭空間に関連する印刷物を収集し、分析することから始めた。当時の社会背景を熟知することから始め、戯曲がどのような文化や歴史的事象を背景に、どのような意義を負って執筆・上演されたのかについて、可能な限り実証的な分析を試みた。社会的・文化的背景を調べた後で、従来の批評を踏まえながらも具体的な戯曲についての考察へとさらに取り組み、William Shakespeare (1564-1616)に限らず、同時代の劇作家である John Marston (1576-1634)、John Fletcher (1579-1625)、Francis Beaumont (1584-1616)、Thomas Middleton (1580-1627)、John Ford (1586-1639)、John Webster (1580-1634)らの戯曲を検証しながら、テキストにみられる民衆文化と祝祭空間の特質、特に疫病禍を背景とした死表象を中心に、それらの動向を明らかにしようとした。その際に気を付けたことは、同じ戯曲であっても出版年の異なる複数の版を比較検討することであり、そこから得られた研究成果を学会または研究会にて発表したのち、論文や研究ノートとして執筆した。

4．研究成果

本研究を通して博士論文を執筆し、大きな目的のひとつでもあった博士号を授与された。エリザベス朝における民衆文化と祝祭空間について、16-17世紀において、祝祭空間の対極にあたる「死」を一貫したテーマとしながら、当時の思想や社会背景を確認し、戯曲の分析へと反映した。イングランドの公的機関が発刊していた死亡週報や、匿名の印刷物等を研究したことで、祝祭空間の背景として存在する疫病流行の期間と死への恐怖は、先行研究が示すよりも恒常的であっ

た可能性を指摘できたと振り返る。さらに、シェイクスピア戯曲に描かれる祝祭と、その新たな材源の可能性については、イングランドで出版された「死の舞踏」図に伴う寓意詩を分析し、そこに確認できる常套句や共通する表象形態が、一連の文化的背景として『ハムレット』などのシェイクスピア作品へも影響を及ぼした可能性を指摘した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計4件)

1. 國崎倫、神様へ誓わない Q4 (1634) 『フィラスターにおける誓言の異同について』 (単著) 九州国際大学教養学会『教養研究』第23巻第1号、pp.1-18、2016年、査読無
2. 國崎倫、『16-17世紀イングランドにおけるペスト流行時の死亡週報について』(単著) 熊本県立大学大学院文学研究科論集第9号、pp.59-81、2016年、査読有
3. 國崎倫、『16-17世紀イングランドにおけるペスト流行時の 死の舞踏』(単著) 九州国際大学教養学会『教養研究』第23巻第2号、pp.73-94、2016年、査読無
4. 國崎倫、博士論文『シェイクスピア戯曲における死の表象と民衆文化』(単著) 熊本県立大学大学院文学研究科、2017年、査読有

〔学会発表〕(計5件)

1. 國崎倫、「神様に誓わない Q4 (1634) - 『フィラスター』における誓言の異同について」九州シェイクスピア研究会、2016年1月、九州大学(単独発表)
2. 國崎倫、「17世紀イングランドにおけるペスト流行時の印刷出版物について」日本英文学会九州支部第69回大会、2016年10月、中村学園大学(単独発表)
3. 國崎倫、「16-17世紀ペスト禍における Danse Macabre についての考察」エリザベス朝研究会、2017年1月、慶應義塾大学(単独発表)
4. 國崎倫、「16-17世紀ロンドンの匿名印刷物における死表象」エリザベス朝研究会、2018年1月、慶應義塾大学(単独発表)
5. 國崎倫、「『ジョン王』におけるペストとナショナリズム」エリザベス朝研究会、2019年1月、慶應義塾大学(単独発表)

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：

国内外の別：

取得状況（計 0 件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6．研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号（8桁）：

(2)研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。